



設定のインポート

SANtricity 11.8

NetApp
December 16, 2024

目次

| | |
|------------------|---|
| 設定のインポート..... | 1 |
| 設定のインポートの概要..... | 1 |
| 概念..... | 1 |
| バッチインポートの使用..... | 3 |
| FAQ..... | 8 |

設定のインポート

設定のインポートの概要

設定のインポート機能を使用すると、1つのアレイから複数のアレイに設定をインポートするバッチ処理を実行できます。この機能により、ネットワーク内で複数のアレイを構成する必要がある場合に時間を節約できます。

どのような設定をインポートできますか？

アラート方法、AutoSupport設定、ディレクトリサービス設定、ストレージ設定（ボリュームグループやプールなど）、およびシステム設定（自動ロードバランシングなど）をインポートできます。

詳細：

- ["設定のインポートの仕組み"](#)
- ["ストレージ構成のレプリケートに関する要件"](#)

バッチインポートの実行方法を教えてください。

ソースとして使用するストレージアレイで、System Managerを開き、必要な設定を行います。その後、Unified Managerの[管理]ページに移動し、1つ以上のアレイに設定をインポートします。

詳細：

- ["アラート設定のインポート"](#)
- ["AutoSupport設定のインポート"](#)
- ["ディレクトリサービス設定のインポート"](#)
- ["ストレージ構成のインポート"](#)
- ["システム設定のインポート"](#)

概念

設定のインポートの仕組み

Unified Managerを使用して、1つのストレージアレイから複数のストレージアレイに設定をインポートできます。設定のインポート機能は、ネットワーク内に複数のアレイを構成する必要がある場合に時間を節約するバッチ処理です。

インポートできる設定

複数のアレイにインポートできる構成は次のとおりです。

- アラート--電子メール、syslogサーバ、またはSNMPサーバを使用して、管理者に重要なイベントを送信するためのアラート方法。

- * AutoSupport *--ストレージ・アレイの状態を監視し、テクニカル・サポートに自動ディスパッチを送信する機能
- ディレクトリサービス-- LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)サーバとディレクトリサービス(MicrosoftのActive Directoryなど)を介して管理されるユーザー認証の方法。
- ストレージ構成--以下に関連する構成。
 - ボリューム（リポジトリボリューム以外のシックボリュームのみ）
 - ボリュームグループとプール
 - ホットスペアドライブの割り当て
- システム設定--以下に関連する設定。
 - ボリュームのメディアスキャン設定
 - SSD設定
 - 自動ロードバランシング（ホスト接続レポートは含まれません）

設定ワークフロー

設定をインポートするワークフローは次のとおりです。

1. ソースとして使用するストレージアレイで、System Managerを使用して設定を行います。
2. ターゲットとして使用するストレージアレイで、System Managerを使用して設定をバックアップします。
3. Unified Managerの* Manage *ページに移動して、設定をインポートします。
4. [* Operations]ページで、設定のインポート操作の結果を確認します。

ストレージ構成のレプリケートに関する要件

ストレージアレイ間でストレージ構成をインポートする前に、要件とガイドラインを確認してください。

シェルフ

- コントローラが配置されているシェルフがソースとターゲットのアレイで同一である。
- シェルフIDがソースアレイとターゲットアレイで同一である必要があります。
- 拡張シェルフは、同じドライブタイプと同じスロットに搭載する必要があります（ドライブが構成で使用されている場合は、未使用ドライブの場所は関係ありません）。

コントローラ

- コントローラのタイプはソースアレイとターゲットアレイで異なる場合があります（E2800からE5700にインポートする場合など）、RBODエンクロージャのタイプは同じである必要があります。
- HIC（ホストのDA機能を含む）がソースアレイとターゲットアレイで同一である必要があります。
- デュプレックス構成からシンプレックス構成へのインポートはサポートされていませんが、シンプレックス構成からデュプレックス構成へのインポートは可能です。

- FDE設定はインポートプロセスに含まれません。

ステータス

- ターゲットアレイのステータスが最適である必要があります。
- ソースアレイのステータスが最適である必要はありません。

ストレージ

- ターゲットのボリューム容量がソースよりも大きいかぎり、ソースアレイとターゲットアレイでドライブ容量が異なる場合があります。（ターゲットアレイには、より新しい大容量のドライブが搭載されている場合がありますが、このドライブはレプリケーション処理によってボリュームに完全に構成されません）。
- ソースアレイのディスクプールボリュームが64TB以上の場合、ターゲットでインポートプロセスを実行できません。
- シンボリュームはインポートプロセスに含まれません。

バッチインポートの使用

アラート設定のインポート

ストレージアレイから別のストレージアレイにアラート設定をインポートできます。このバッチ処理により、ネットワーク内に複数のアレイを設定する必要がある場合に時間を節約できます。

開始する前に

- アラートは、ソースとして使用するストレージアレイのSystem Managerで設定します（メニュー：Settings [Alerts]）。
- ターゲットストレージアレイの既存の構成は、System Managerでバックアップされます（メニュー：[設定][システム]>[ストレージアレイ構成の保存]）。

タスクの内容

インポート処理では、Eメール、SNMP、またはsyslogのいずれかのアラートを選択できます。インポートされる設定は次のとおりです。

- *Email alerts *--メールサーバのアドレスとアラート受信者の電子メールアドレス。
- **Syslog**アラート-- syslogサーバのアドレスとUDPポート。
- *snmp alerts *-- SNMPサーバのコミュニティ名とIPアドレス。

手順

1. [管理]ページで、[設定のインポート*]をクリックします。

設定のインポートウィザードが開きます。

2. 設定の選択ダイアログボックスで、電子メールアラート、* SNMPアラート*、または* Syslogアラート*のいずれかを選択し、*次へ*をクリックします。

ソースアレイを選択するためのダイアログボックスが開きます。

3. [ソースの選択]ダイアログボックスで、インポートする設定のアレイを選択し、[次へ]をクリックします。
4. [Select Targets]ダイアログボックスで、新しい設定を適用するアレイを1つ以上選択します。



ファームウェアが8.50未満のストレージアレイは選択できません。また、Unified Managerが通信できないアレイ（オフラインのアレイ、証明書、パスワード、ネットワークに問題があるアレイなど）は、このダイアログボックスに表示されません。

5. [完了]をクリックします。

[Operations]ページにインポート処理の結果が表示されます。処理に失敗した場合は、その行をクリックすると詳細が表示されます。

結果

Eメール、SNMP、またはsyslogを使用して管理者にアラートを送信するようにターゲットストレージアレイが設定されました。

AutoSupport設定のインポート

ストレージアレイから別のストレージアレイにAutoSupport構成をインポートできます。このバッチ処理により、ネットワーク内に複数のアレイを設定する必要がある場合に時間を節約できます。

開始する前に

- AutoSupport は、ソースとして使用するストレージアレイ（メニュー：サポート[サポートセンター]）に対してSystem Managerで設定します。
- ターゲットストレージアレイの既存の構成は、System Managerでバックアップされます（メニュー：[設定][システム]>[ストレージアレイ構成の保存]）。

タスクの内容

インポートされる設定には、個別の機能（Basic AutoSupport、AutoSupport OnDemand、およびRemote Diagnostics）、メンテナンス時間、配信方法、およびディスパッチスケジュールが含まれます。

手順

1. [管理]ページで、[設定のインポート*]をクリックします。

設定のインポートウィザードが開きます。

2. 設定の選択ダイアログボックスで、「* AutoSupport」を選択し、「*次へ」をクリックします。

ソースアレイを選択するためのダイアログボックスが開きます。

3. [ソースの選択]ダイアログボックスで、インポートする設定のアレイを選択し、[次へ]をクリックします。
4. [Select Targets]ダイアログボックスで、新しい設定を適用するアレイを1つ以上選択します。



ファームウェアが8.50未満のストレージアレイは選択できません。また、Unified Managerが通信できないアレイ（オフラインのアレイ、証明書、パスワード、ネットワークに問題があるアレイなど）は、このダイアログボックスに表示されません。

5. [完了] をクリックします。

[Operations] ページにインポート処理の結果が表示されます。処理に失敗した場合は、その行をクリックすると詳細が表示されます。

結果

ターゲットストレージアレイのAutoSupport設定がソースアレイと同じになります。

ディレクトリサービス設定のインポート

ストレージアレイから別のストレージアレイにディレクトリサービス設定をインポートできます。このバッチ処理により、ネットワーク内に複数のアレイを設定する必要がある場合に時間を節約できます。

開始する前に

- ディレクトリサービスは、ソースとして使用するストレージアレイのSystem Managerで設定されます（メニュー：設定[アクセス管理]）。
- ターゲットストレージアレイの既存の構成は、System Managerでバックアップされます（メニュー：[設定][システム]>[ストレージアレイ構成の保存]）。

タスクの内容

インポートされる設定には、LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）サーバのドメイン名とURL、およびLDAPサーバのユーザグループとストレージアレイの事前定義されたロールのマッピングが含まれます。

手順

1. [管理] ページで、[設定のインポート*] をクリックします。

設定のインポートウィザードが開きます。

2. [設定の選択] ダイアログボックスで、[ディレクトリサービス] を選択し、[次へ*] をクリックします。

ソースアレイを選択するためのダイアログボックスが開きます。

3. [ソースの選択] ダイアログボックスで、インポートする設定のアレイを選択し、[次へ] をクリックします。

4. [Select Targets] ダイアログボックスで、新しい設定を適用するアレイを1つ以上選択します。



ファームウェアが8.50未満のストレージアレイは選択できません。また、Unified Managerが通信できないアレイ（オフラインのアレイ、証明書、パスワード、ネットワークに問題があるアレイなど）は、このダイアログボックスに表示されません。

5. [完了] をクリックします。

[Operations] ページにインポート処理の結果が表示されます。処理に失敗した場合は、その行をクリックすると詳細が表示されます。

結果

ターゲットストレージアレイにソースアレイと同じディレクトリサービスが設定されます。

システム設定のインポート

ストレージアレイから別のストレージアレイにシステム構成をインポートできます。このバッチ処理により、ネットワーク内に複数のアレイを設定する必要がある場合に時間を節約できます。

開始する前に

- ソースとして使用するストレージアレイのシステム設定をSystem Managerで設定しておきます。
- ターゲットストレージアレイの既存の構成は、System Managerでバックアップされます（メニュー：[設定]>[システム]>[ストレージアレイ構成の保存]）。

タスクの内容

インポートされる設定には、ボリュームのメディアスキャン設定、コントローラのSSD設定、および自動ロードバランシングが含まれます（ホスト接続レポートは含まれません）。

手順

1. [管理]ページで、[設定のインポート*]をクリックします。

設定のインポートウィザードが開きます。

2. [設定の選択]ダイアログボックスで、[システム]を選択し、[次へ*]をクリックします。

ソースアレイを選択するためのダイアログボックスが開きます。

3. [ソースの選択]ダイアログボックスで、インポートする設定のアレイを選択し、[次へ]をクリックします。
4. [Select Targets]ダイアログボックスで、新しい設定を適用するアレイを1つ以上選択します。



ファームウェアが8.50未満のストレージアレイは選択できません。また、Unified Managerが通信できないアレイ（オフラインのアレイ、証明書、パスワード、ネットワークに問題があるアレイなど）は、このダイアログボックスに表示されません。

5. [完了]をクリックします。

[Operations]ページにインポート処理の結果が表示されます。処理に失敗した場合は、その行をクリックすると詳細が表示されます。

結果

ターゲットストレージアレイのシステム設定がソースアレイと同じになります。

ストレージ構成のインポート

ストレージアレイから別のストレージアレイにストレージ構成をインポートできます。このバッチ処理により、ネットワーク内に複数のアレイを設定する必要がある場合に時間を節約できます。

開始する前に

- ソースとして使用するストレージアレイのストレージをSANtricity System Managerで設定しておきます。
- ターゲットストレージアレイの既存の構成は、System Managerでバックアップされます（メニュー：[設定][システム]>[ストレージアレイ構成の保存]）。
- ソースアレイとターゲットアレイが次の要件を満たしている必要があります。
 - コントローラが配置されているシェルフが同じである必要があります。
 - シェルフIDが同じである必要があります。
 - 拡張シェルフには、同じドライブタイプの同じスロットが搭載されている必要があります。
 - RBODエンクロージャタイプは同一である必要があります。
 - HICが、ホストのData Assurance機能を含めて同一である。
 - ターゲットアレイのステータスが最適である必要があります。
 - ターゲットアレイのボリューム容量がソースアレイの容量よりも大きい。
- 次の制限事項に注意してください。
 - デュプレックス構成からシンプレックス構成へのインポートはサポートされていませんが、シンプレックス構成からデュプレックス構成へのインポートは可能です。
 - ソースアレイのディスクプールボリュームが64TB以上の場合、ターゲットでインポートプロセスを実行できません。
 - シンボリュームはインポートプロセスに含まれません。

タスクの内容

インポートされる設定には、設定済みのボリューム（リポジトリボリュームでないシックボリュームのみ）、ボリュームグループ、プール、およびホットスペアドライブの割り当てが含まれます。

手順

1. [管理]ページで、[設定のインポート*]をクリックします。

設定のインポートウィザードが開きます。

2. [設定の選択]ダイアログボックスで、[ストレージ構成*]を選択し、[次へ*]をクリックします。

ソースアレイを選択するためのダイアログボックスが開きます。

3. [ソースの選択]ダイアログボックスで、インポートする設定のアレイを選択し、[次へ]をクリックします。
4. [Select Targets]ダイアログボックスで、新しい設定を適用するアレイを1つ以上選択します。



ファームウェアが8.50未満のストレージアレイは選択できません。また、Unified Managerが通信できないアレイ（オフラインのアレイ、証明書、パスワード、ネットワークに問題があるアレイなど）は、このダイアログボックスに表示されません。

5. [完了]をクリックします。

[Operations]ページにインポート処理の結果が表示されます。処理に失敗した場合は、その行をクリックすると詳細が表示されます。

結果

ターゲットストレージアレイのストレージ構成がソースアレイと同じに設定されます。

FAQ

どのような設定がインポートされますか？

設定のインポート機能は、1つのストレージアレイから複数のストレージアレイに構成をロードするバッチ処理です。この処理でインポートされる設定は、ソースストレージアレイがSystem Managerでどのように設定されているかによって異なります。

複数のストレージアレイにインポートできる設定は次のとおりです。

- **Email alerts**--メールサーバのアドレスとアラート受信者の電子メールアドレスを設定します
- **Syslog**アラート-- syslogサーバのアドレスとUDPポートを含む設定。
- ***snmp alerts ***-- SNMPサーバのコミュニティ名とIPアドレスを含む設定。
- *** AutoSupport ***--個別の機能（Basic AutoSupport、AutoSupport OnDemand、Remote Diagnostics）、メンテナンス時間、配信方法、およびディスクパッチスケジュール。
- **ディレクトリサービス**-- LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)サーバのドメイン名とURL、およびLDAPサーバのユーザーグループとストレージアレイの定義済みロールとのマッピングが含まれます。
- **ストレージ構成**--ボリューム(リポジトリボリューム以外のシックボリュームのみ)、ボリュームグループ、プール、およびホットスペアドライブの割り当てが含まれます。
- **システム設定**--ボリュームのメディアスキャン設定、コントローラのSSDキャッシュ、および自動ロードバランシングが含まれます(ホスト接続レポートは含まれません)。

ストレージアレイが一部表示されないのはなぜですか？

設定のインポート処理の実行時に、一部のストレージアレイがターゲットの選択ダイアログボックスに表示されないことがあります。

ストレージアレイが表示されない理由は次のとおりです。

- ファームウェアのバージョンが8.50未満である。
- ストレージアレイがオフラインです。
- システムがそのアレイと通信できない（アレイに証明書、パスワード、ネットワークの問題があるなど）。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。